

松下国際財団 研究助成 研究報告

【氏名】 齋藤久美子

【所属】(助成決定時) お茶の水女子大学

【研究題目】16-17世紀オスマン朝の国境政策とフロンティア社会

— ヨーロッパ・アジア両境域における国境と辺境の 比較研究の試み —

【研究の目的】

これまで16-17世紀のオスマン支配については、ティマール制を中心に地方統治に関する研究が行われてきたが、史料的制約もあって、オスマン朝の東西の国境について研究者の関心がおよぶことは稀であった。しかしながら国境防衛はオスマン朝の中央集権を支えた一つの柱であり、特に地方有力者の国境防衛組織への参画を推進したことは、この方向において重要な意味を持っていたといえる。本研究は、オスマン朝の東側のフロンティアであり、イランと接する東部アナトリア地域に着目し、同地域における城塞守備隊の展開と地域社会との関わりについて検討することにより、オスマン朝の国境政策について明らかにすることを目的とした。

【研究の内容・方法】

申請者はこれまでオスマン朝による東部アナトリアの征服と、その後の同地域におけるオスマン支配の定着について研究してきた。研究方法としては、ティマール制を軸に、東部アナトリアの旧支配層であるクルド系部族勢力がオスマン支配に統合される過程を分析してきた。しかしながらティマール制と同様に重要であった国境防衛組織とそれを財政的に支えたとされる地方財務組織の役割については一部触れただけにとどまっていた。以上から、本研究はこれまでの研究の継続という位置づけにある。

本研究は16世紀から17世紀の2世紀を研究対象としている。研究方法としては、①東部アナトリアの境域における城塞守備隊の人員数、組織図、俸給、任務など組織の全体図の概観、②城塞守備隊と地域社会との関わり(人材リクルートシステム)、③城塞守備隊と地方財務組織との関わり(俸給授与システム)という3つの点を中心に研究を行うこととした。

研究を遂行するうえで最も重要なのが資料調査および収集である。このため2009年8月から9月にかけて、トルコ共和国イスタンブール市およびヴァン市に所在する研究機関で資料調査を行った。これに加えて、刊行資料や既往研究の調査も進めた。資料調査が終了した2009年9月以降は収集資料と関連文献のデータベースを作成した。同年10月以降は史料のアラビア文字からローマ字転写を行い、日本語への抄訳作業を行っている。この作業が終了した後は収集資料の分析を開始する。この過程でオスマン朝の西側境域の城塞守備隊に関する先行研究を参考にしつつ、オスマン朝の東西の国境政策について比較分析を試みたい。

【結論・考察】

申請者は本研究を2009年4月に開始し、夏期に資料調査・収集を行った。報告書作成時は史料のローマ字転写と日本語への抄訳作業を進めており、未だ本格的な史料分析には至っていない。そのため現時点で重要だと思われる点について記したい。まず本研究に関しては纏まった一次史料がなく、あらゆる種類の文書史料に個々別々に記された記録を取捨選択する必要があった。文書史料を読み込む中、東部アナトリアの旧支配層であるクルド系部族勢力から多くの部族民が手数料を支払い城塞守備兵となったことに気づいた。オスマン朝征服前の東部アナトリアでは部族民の収入源を保証していたのは部族長であったが、オスマン朝征服後にはオスマン政府が部族民の収入源を保証したことになる。オスマン朝は国境防衛のために現地の事情に詳しい者たちを兵士としてリクルートしたが、それは部族勢力を束ねる部族長にとっても財政負担の軽減という点から受け入れ易い政策であっただろう。それ以上に東部アナトリアの部族勢力の城塞守備隊への統合は、同地域におけるオスマン支配の確立といった点から大きな意味を持っただろうと考える。